

京都府高等学校体育連盟主催事業における 新型コロナウイルス感染予防対策【専門部ルール】

専門部名： 定通制バドミントン 専門部

策定日： 令和 3 年 5 月 14 日

1、大会開催の専門部独自条件について

- ・ 会場校で陽性者が出たために、外部者の入構を禁止された場合、延期または中止とする。

2、大会参加条件について

- ・ 試合の前から健康観察に努める。試合前後1週間の体温を記録しておく。
- ・ 大会参加について、生徒本人及び保護者からの同意が得られない場合参加をさせない。
- ・ 大会当日の朝、検温の上、発熱や風邪症状がある場合は参加させない。

3、大会当日の検温における発熱者確認時の対応

- ・ 参加者が来場後に体調不良を訴えた場合、他の参加者と離れた場所に移動させて様子を見る。場合により、帰宅通院などの対応をする。

4、大会申込後に出場を辞退する学校（チーム）がでた場合の対応

- ・

5、学校（チーム）応援者・観客について

- ・ 無観客で行う。
- ・ 選手・補助員・審判・役員以外の立ち入りは原則禁止とする。
- ・ 来場するすべての方に検温してからの参加を求める。発熱等の症状がみられる場合は参加させない。

6、専門部独自の感染症対策について

- ・ 発熱や軽度であっても咳・咽頭痛などの症状がある人は入場させないようにする。（状況によっては発熱者を体温計などで特定し、入場を制限する。）
- ・ 体育館や控室に外部から入る際は、手指消毒か手洗いの指導をする。。会場の各所に消毒用アルコールを設置する。

<手洗い・手指消毒のタイミング>

- ①トイレや更衣室など外部から体育館フロアに入る時に行う。
- ②審判は審判道具をもらう前に手指消毒をする。
- ③試合が終わった時にも行う。
- ④食事をとる前後に行う。
- ⑤その他必要な時に行う。

- ・ 注意伝達時など、出場選手は距離を置いて（できるだけ2mを目安に最低1m）並びように指示する試合後・練習後は呼気が激しくなるため、より一層距離を開けるよう指導をする。
- ・ スタッフ・審判・選手はマスク着用の指導をする。受付・着替え等の試合を行っていない間、特に会話をするときにはマスクの着用をするよう指導をする。
- ・ 試合終了後は、審判・得点係などは手洗いか手指消毒の指導をする。場合により、使い捨て手袋を使用する。
- ・ 更衣室、休憩・待機スペースは感染リスクが比較的高いので、密（5人以上）にならないように利用するよう指導をする。
- ・ 大声での声援や会話を控えるよう指導する。
- ・ 全般に三つの密（密閉・密接・密集）を避けるよう、指導をする。
- ・ 試合間の待機場所を指定し、他校との接触を極力避ける。

<試合について>

- ・ 体育館には選手・審判員・スタッフのみが入室できる。
- ・ 試合前後の選手同士の握手はせず、一礼だけのあいさつのみとする。
- ・ 靴裏を手で触ったり、唾をつけない。（雑巾を利用させる）
- ・ 試合短縮のために競技ルールを変更することがある。

<審判について>

- ・ 審判道具を受け取る時に消毒をする。
- ・ 勝者サインは勝者に書かせない。勝者にスコアを確認させ、勝者の立会いのもとで審判が勝者の名前を書く。
- ・ 審判は試合後、審判道具を本部に持ってきて、手指消毒を行う。敗者が審判道具を本部に戻さない。

<手洗いについて>

- ・ 手洗い後は、必ずマイタオルで拭くよう指導をする。（タオルの共用はしないよう指導をする。）

<トイレ使用について>

- ・ トイレのふたを閉めて汚物を流すよう指導をする。
- ・ 使用後の手洗いを必ずさせる指導をする。

<飲食時>

- ・ 飲食を手にする前に、手洗い、手指消毒を行うように指導する。

- ・ 飲食については、指定場所以外で行わず（密にならないよう注意する）、周囲の人となるべく距離をとって対面を避け、会話は控えめにする指導をする。また食物の取り分けや回し飲みはしないよう、指導をする。

<ごみの廃棄>

- 鼻水・唾液などがついたゴミは、ビニール袋に入れて密封して縛り、持ち帰る指導をする。
- ゴミを回収しマスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹸と流水で手を洗い、手指消毒の指導をする。

<その他>

- 換気の悪い密閉空間とならないよう、十分に換気を行うため、換気の時間を設ける。
マスクは十分な呼吸ができず人体に影響を及ぼす可能性があり、熱放散が妨げられることで熱中症のリスクが高くなるので、息苦しさを感じた時はすぐにマスクを外し、休憩をとる等、無理をしないよう、指示する。
- 体調不良等、異変を感じた時は教員に連絡するよう指導をする。